

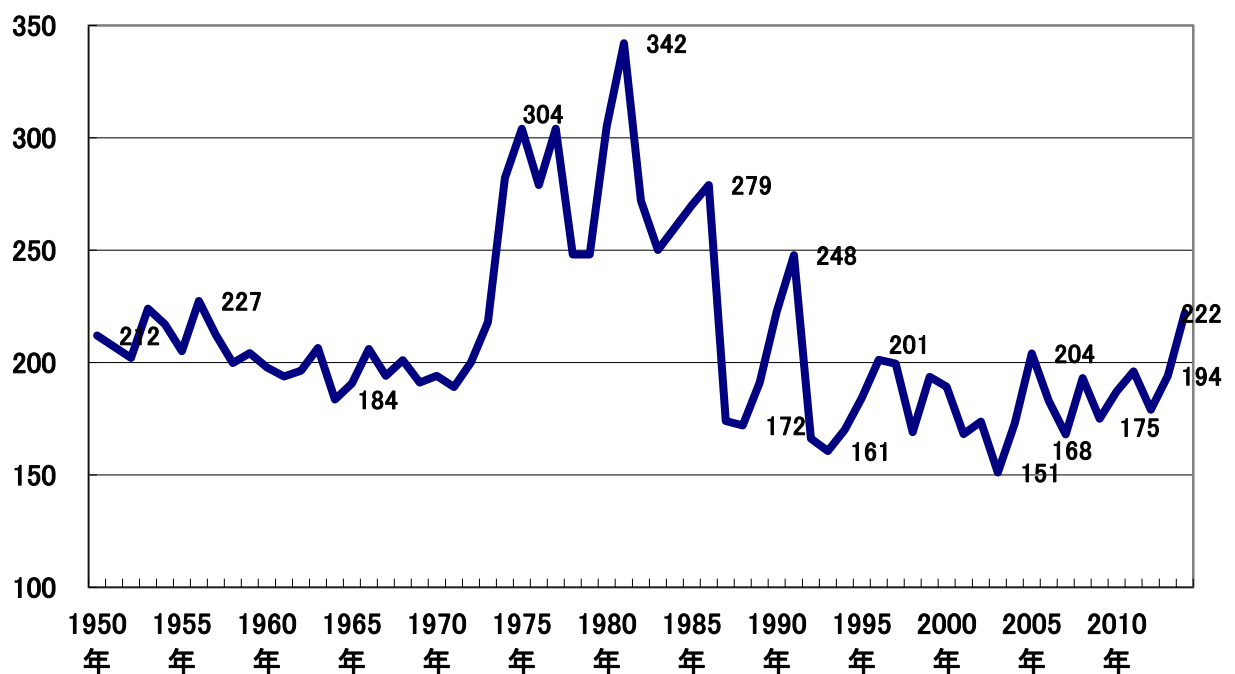
特集：鶏卵相場について考える

平成 25 年の秋以降、比較的卵価が堅調に推移しています。 今月は卵価（鶏卵相場）について考えてみます。

① 長期的相場

相場を動かす基本は需要と供給の関係です。 需要>供給となれば相場は上昇し、需要<供給となれば相場が下がることとなります。 相場には現物としての動きを示すものと、将来の価格を想定して取引する先物相場があります。 現物相場としては各地の荷受け業者と言われる方々が発表するものがあり、一番代表的なものが東京全農 M サイズといわれており、これは JA 全農鶏卵（株）により、毎営業日に公表されております。 ちなみに下記のチャートが昭和 25 年から平成 26 年までの全農東京 M サイズの年平均相場の推移です。

【チャート 1 東京全農 M サイズ推移 昭和 25 年～平成 26 年 (Kg/円)】

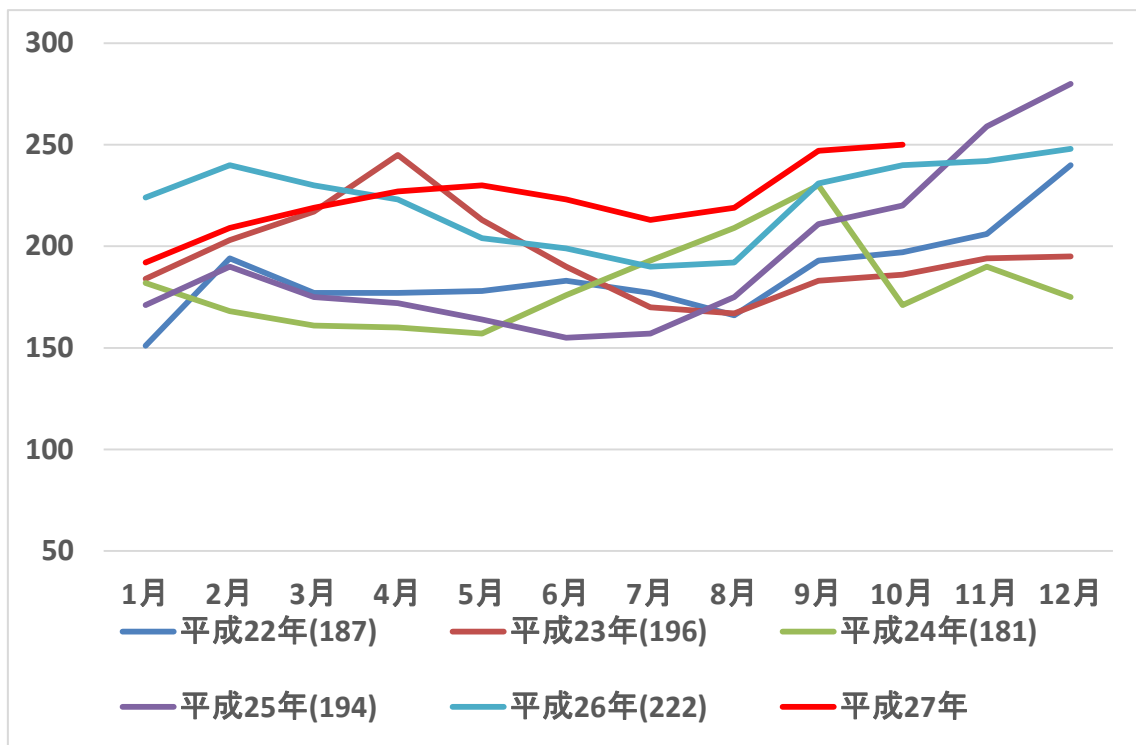


鶏卵においても平成 11 年（1999 年）11 月から平成 22 年 2 月まで、名古屋の中部商品取引所で先物相場がありました。 先物相場は将来の相場価格を取引す

るものであり、世界的に穀物相場等では現物相場よりも先物相場が主流となっています。日本の鶏卵業界においては、ヘッジの手段であるという先物相場の基本が理解されないままに、終焉してしまいました。長期的な相場は一定期間の流れにより形成されるものであり、日々の相場を予測する上での、基本になるものです。

② 短期的相場

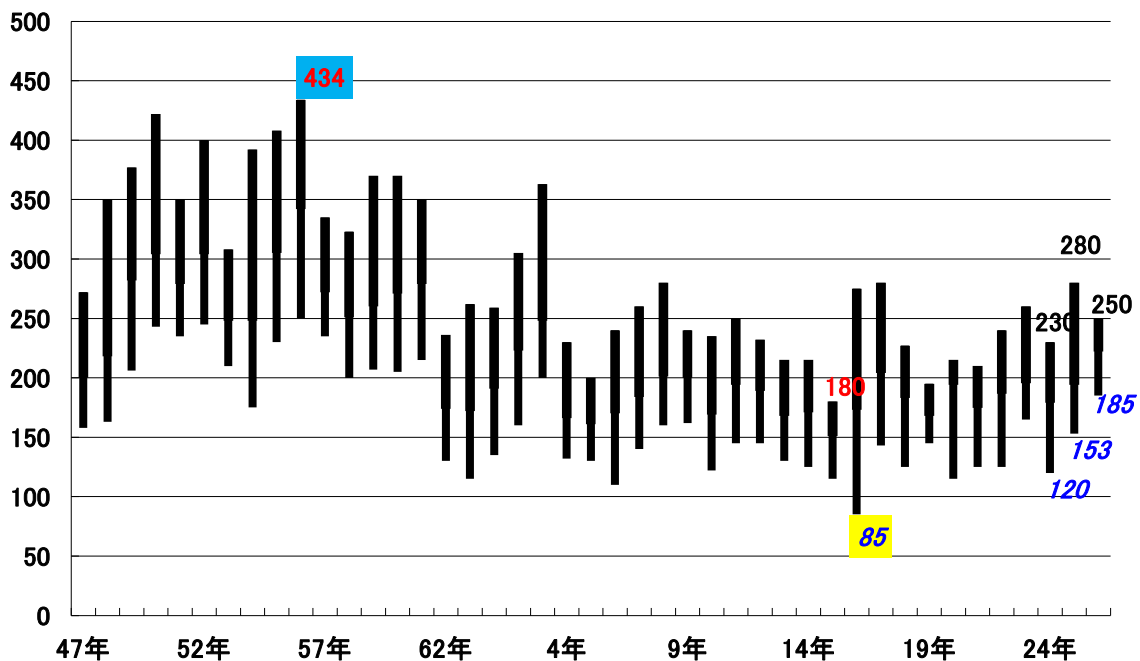
【チャート2 平成22年—26年東京全農Mサイズ推移 (Kg/円)】



上記は平成22年～26年の毎月の東京全農Mサイズの平均値をチャートにしたものです。これによって毎年の同月対比ができます。またこのチャートから鶏卵相場の年間での流れが読み取れます。つまり1月の初市後回復した相場は通常であれば2月をピークに下げ、5月連休前に一度持ち直し、その後は7月の夏場にかけて下げます。これは1月から3月がまだ需要期であるにも関わらず、過去からの習慣(?)では止め市で極端に下げられた卵価が実需により戻されるということで、その後3月から6月にかけて気候が良くなり産卵率やサイズバランスが良くなることから相場が下がるという展開になります。その後は7月末くらいからの気温上昇に伴って産卵率やサイズバランスが偏ることから、相場が上昇傾向になります。10月以降は需要期に向かうことから相

場は上昇し、12月に年間高値をつける、というのが一般的な動きでしょう。この一般的な動きをはずした年には、それなりの相場要素があると考えられます。上記のチャートの場合、平成24年相場の9月から12月にかけての下落と今年の1月から5月にかけての上昇が、一般的な動きからはずれている、と言えましょう。平成24年相場の場合には、熱波による斃死鶏の増加が相場の早期上昇となりましたが、その後秋口になってからの加工筋よりの買いが弱まった事が相場下げの要因とされています。今年の1月から5月にかけての上昇は平成16年1月から6月にかけて上昇したことに続く、前代未聞の相場傾向です。平成16年相場の場合には前年が年間平均値151円という史上最低値の超低卵価と言われた相場からの回復という要因と、1月の初市85円、1月平均95円というコストを大幅に下回った相場からの回復という異常要因によるものでありました。果たして今年の相場の要因はどこにあるのでしょうか？

【チャート3 東京全農Mサイズ推移 年間高値/安値/平均値チャート 昭和47年～平成26年 (Kg/円)】 最高値 434円 (昭和56年12月23日)、
最安値 85円 (平成16年1月5日)



相場の基本は需給要素です。その時点時点での需給により相場が動きますが、未来永劫上がり続けるとか、果てしなく下げ続けるという相場はありません。上昇傾向が続くことは、供給が不足している訳ですから、増羽を行う生産者が必ず出現します。もしくは増羽が見込めない場合には輸入が起こることにな

り、その結果は相場の頭を打ちます。もしくは消費者や食品メーカーが相場価格に耐えられない場合には、卵を他の食品に代替する動きが起こります。現実の話として、今年夏場の米国中西部（特にアイオワ州）でのインフルエンザによる減産から、一部の外食業者は卵の使用の多い朝食メニューの提供時間を制限したり、中華料理のファストフードチェーンでは炒飯の卵の代わりに、トウモロコシを使用したりして、しのぎました。相場下落が続く、コストを下回る様な相場が続けば、資金的余裕のない生産者は撤退せざるをえなくなります。その様な生産者が増加すると、減羽傾向が強まり、その結果相場が上昇するというサイクルが生じます。その様なサイクルは、チャート3のローソクチャートによりある程度の理解をすることができます。また中期間の傾向も併せて理解できます。ローソクチャートの傾向からすると、まだ流れが右下がりになるとは思われません。

③ 最近の傾向

上記①で本年の相場に異常傾向があるとしましたが、本年の相場要因について考えてみます。

（1）通常卵から固定売価卵販売へ

本来、その時々需給関係で価格は決定するのであり、10年ほど前まではスーパーで販売される卵は鶏卵相場に連動する「通常卵」（サイズ規格卵）が殆どでした。平成16年の枠制度撤廃を控えた平成15年には、鶏卵相場は超安値相場となりました。この超低卵価という未曾有の現象から、一部養鶏家は量販店に対して、「年間一本価格＝コスト＋ α 」による契約や特殊卵（固定価格）の販売などの提案を増加させました。量販店サイドとしても、従来の鶏卵＝特売商品＝客寄せのためのロス商品という考え方を改めて、鶏卵取扱いでも儲かる仕組みを作る機運が強かったことと、また鶏卵でも量販店のカラーを反映させた、PB商品を作りたいという意欲的な動きも高まったことから、常に利益の出る固定売価商品の導入が増加しました。昨年秋の卵価高騰以降、比較的高卵価状態が続いており、**PB卵・特殊卵等の固定価格が通常卵価格を下回っております。**（PB卵価格198円、通常卵価格250円）この状況では殆どの量販店は養鶏家に対して、固定売価商品のみでの発注しか行わず、売り場でも卵価に影響されないパック卵が山積みされており、都市部での一般消費者に対する影響は無いという傾向です。固定売価による買い付けは大手量販店のみならず、大手加工メーカーも同様の仕組みを作りはじめていることから、**相場に影響され**

ない鶏卵の比率が高まっているのが、最近の大きな相場要因と思われます。生産農家も実需者も固定売価取引を増やすことにより、相場における浮遊玉が減少しており、買い叩かれる玉が減少したところから、相場が高値安定した、と考えられます。

(2) 需要について

・米国では牛、豚価格が高騰している現在、**経済的な動物タンパクとして卵の需要が増加**しております。特に外食関係ではその傾向が顕著です。米国では上述の様に鳥インフルエンザにより外食用鶏卵供給なども一時的には減少している様ですが、その中でも外食最大手のマクドナルドは 10 月より「All Day Breakfast(一日中朝食メニュー提供)」を開始しています。高騰した卵価の環境下でも卵メニューはカンフル剤になると判断されてのことです。日本でも同様のことは起こりうるので、**外食業の潜在的な需要は高い**と思われます。

・以前は北海道のコンビニのみ 9 月からおでんを販売し、他の地区では 11 月からの販売開始となっていました。今では**全国のコンビニが 9 月からおでんを開始したことも需要増の要因**でしょうか。

・また**コンビニのスイーツの深化**は目覚ましいものがあり、必ず新しいスイーツには何らかの形で卵が使用されているケースが多いと思います。

・卵だけではなく、**外国人旅行者の増（インバウンド）**も食品需要の要因でしょうか。

・米国の AI による**輸入減**という要因も需要増要因でしょう。

・緩い形での情報効果として、今年の 5 月に動脈硬化学会が声明を発表してから、「一日 1 個の卵制限」が解禁というメディアの取り上げ方もありました。(コレステロール問題については業界として本格的に取り組む必要があります、隠れた需要要因と思われます。)

色々な複合要因で需要が徐々に増加していることが、今回の堅調相場の要因と思われます。

(3) コスト面

・実質飼料価格は過去に無い高いレベルで推移しております。本年の米国トウモロコシ作柄も豊作であったにも関わらず、円安状況から 10-12 月飼料価格が 7-9 月期と同価格に据え置かれ、相変わらずの**高いレベルが続いています**。現在の卵価が高水準としても、コストも高水準であることから、**養鶏家の苦戦は続いています**。コストが高くて、低卵価であれば生産農家の撤退が起こりその結果、減羽/減産により卵価回復というサイクルになりますが、本年度相場

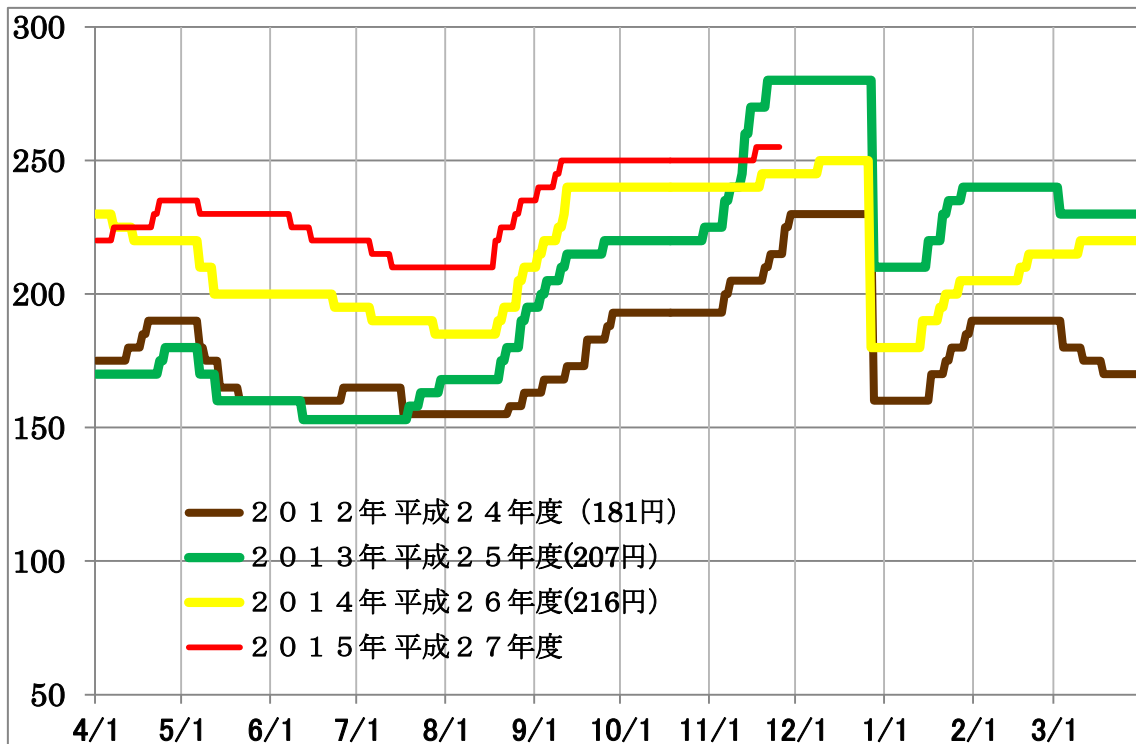
はそのパターンを先取りした様な相場展開と言えます。

【相場動向】 過去 10 年間の 10 月相場

| | 平均値 | 高値 | 安値 |
|-------|-----|-----|-----|
| 平成18年 | 204 | 205 | 200 |
| 平成19年 | 170 | 170 | 170 |
| 平成20年 | 211 | 215 | 210 |
| 平成21年 | 184 | 190 | 180 |
| 平成22年 | 197 | 200 | 195 |
| 平成23年 | 186 | 190 | 185 |
| 平成24年 | 193 | 193 | 193 |
| 平成25年 | 220 | 225 | 220 |
| 平成26年 | 240 | 240 | 240 |
| 平成27年 | 250 | 250 | 250 |
| 平均値 | 200 | 208 | 204 |

平成 27 年 10 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 250 円となりました。これは昨年の 240 円よりは 10 円高くなり、先月の平均値 247 円より 3 円高くなりました。8 月から 9 月にかけての急激な上昇が一服した感があります。

【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



【鶏卵関係主要計数】 9月までの1年間の主要計数推移

| 平成26年 | 雛餌付羽数(出荷) | | 配合飼料出荷量 | | 家計消費量 | | 鶏卵相場 | |
|-------|-----------|--------|---------|--------|---------|--------|-------|-----|
| | 数量(千羽) | 前年比 | 数量(千トン) | 前年比 | 数量(グラム) | 前年比 | 東京全農M | 本年 |
| 10月 | 8,497 | 109.9% | 488 | 105.2% | 819 | 96.4% | 240 | 220 |
| 11月 | 8,136 | 98.7% | 454 | 97.8% | 843 | 101.2% | 248 | 259 |
| 12月 | 8,803 | 108.6% | 533 | 105.5% | 880 | 102.8% | 222 | 280 |
| 27年1月 | 8,506 | 109.5% | 462 | 99.9% | 765 | 96.4% | 192 | 224 |
| 2月 | 8,273 | 102.6% | 449 | 101.4% | 819 | 101.9% | 209 | 240 |
| 3月 | 9,263 | 107.3% | 480 | 97.3% | 851 | 103.6% | 219 | 230 |
| 4月 | 8,411 | 95.9% | 479 | 103.5% | 838 | 107.0% | 227 | 223 |
| 5月 | 8,989 | 101.6% | 451 | 94.9% | 856 | 100.0% | 230 | 204 |
| 6月 | 9,084 | 102.8% | 454 | 101.6% | 803 | 94.5% | 223 | 199 |
| 7月 | 8,831 | 99.6% | 461 | 102.3% | 818 | 101.1% | 213 | 190 |
| 8月 | 7,502 | 103.0% | 427 | 100.2% | 805 | 100.5% | 219 | 192 |
| 9月 | 8,444 | 95.6% | 455 | 101.0% | 802 | 97.2% | 247 | 231 |
| 1年間小計 | 102,739 | 101.8% | 5,593 | 100.9% | 9,098 | 100.2% | 224 | 224 |

先月同様、9月までの一年間での配合飼料出荷量/一人当たり家計消費量が同じ様な比率で前年対比伸びており、バランスが取れた形で生産量/消費量が前年同期並みとなっていることを示しています。雛餌付羽数は9月では大きく減少したものの、この1年間では前年同期対比増加となっており、来年春以降の生産量増加が予測されます。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

価格差補填事業の事業参加者との契約数量(月当たり/トン)

| | |
|--------|---------|
| 平成25年度 | 164,822 |
| 平成26年度 | 160,792 |
| 平成27年度 | 161,936 |

・10月の標準取引価格 247.84 円/Kg(補填なし)

(2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業

・11月5日にいいたまごの日の記念行事が行われました。

当日午後に「いいたまごの日」「2個タマ運動」「タマリエ」「オムレツの日」

「親子丼の日」「エッグの日」「たまごかけごはんシンポジウム」関係者が集合し、情報交換を行い、今後の活動について積極的に議論を交わしました。全国の協議会による広範囲な結集が望ましいとの意見が多く、各団体に持ち帰り、今後検討を行うこととなりました。夜はマイナビウーマンの読者参加によるお料理教室が東京ガス 銀座プラスGで開催され、席上いいたまごの日キャラクターの名前が「卵母（たまも）ちゃん」と発表されました。



←卵母（たまも）ちゃん

(3) 畜産物輸出特別支援事業

既に輸出用ダンボール箱にロゴマークを刷り込むこととともに、インパックラベル（表面：ロゴマーク、キャッチコピー）をパック卵に挿入した製品の輸出が開始されましたが、より一層の輸出拡大を図るために、鶏卵輸出準備分科会会員による香港での調査が11月30日～12月4日に行われる事となりました。また牛肉分科会、養豚・食鳥・牛乳/酪製品各準備分科会と合同で、12月24-28日に香港フードフェスティバルに6名が参加して、「日本のたまご」の展示や試食等の活動を行う事となりました。

(4) 平成 27 年度全国優良畜産経営管理技術発表会

11月12日に開催された掲題の会で当協会の推薦農場である長野県松本市の会田共同養鶏組合様が見事に農林水産大臣賞を授与され、第55回農業祭での天皇賞候補となりました。これで一昨年鈴木養鶏場様（大分県）、昨年アルム様（岡山県）に続いての3年連続農林大臣賞授与となりました。

(5) 平成 27 年度日本の食魅力再発見・国産畜産物フェア（消費拡大全国展開事業）

主に飼料米を飼養した畜産物をPRするために、11月14-15日 東京日比谷公園（[食と農林漁業の祭典第6回ファーマーズ&キッズフェスタ 2015](#)）、11月

21-22 日 香川県サンメッセ香川大展示場 ([平成 27 年度さぬきうまいもん祭り「食の大博覧会」](#)) に当協会も参加して、ブース展示等を行いました。東京では初日が雨でしたが、多くの家族連れで賑わいました。香川県会場では香川県の製品の展示・直売・試食等が行われ、当方よりは飼料米により成育された鶏からの卵の宣伝を行いました。

②会議等

(1) 鳥インフルエンザ問題対策委員会

11 月 6 日に本年度第 1 回目会議が開催されました。鳥インフルエンザ対策について、論点整理を行い、各論点に関し、既存の仕組みを再確認した上で、今後の対策を検討することとされました。

(2) 組織改革委員会

11 月 6 日に第 2 回の会議を開催し、理事会への提案事項(会費、事業規模等)を検討しました。

(3) 正副会長会議、理事会

11 月 12 日に第 5 回の会議を開催し、平成 27 年度事業の進捗状況と専門委員会の審議状況が報告されました。鳥インフルエンザ経営再建保険に係る本協会への加入について検討された結果、日本養鶏協会未加入者から加入申込があった場合には、承認することとなりました。

(4) 鶏卵生産者経営安定対策委員会

11 月 24 日に第 2 回会議を開催し、鶏卵価格差補填事業と成鶏更新・空車延長事業について、平成 29 年度以降の新事業年度案を検討しました。

③今後の予定

11 月 26 日 (木) 審議委員会

12 月 14 日 (月) 国産鶏卵に関する普及啓発事業委員会

17 日 (木) 正副会長会議、理事会

18 日 (金) 鳥インフルエンザ問題対策委員会

いいたまごの日 記念イベント お料理下手でも大丈夫！「カレの胃袋をつかむ♡
簡単お料理レッスン」



マイナビウーマン読者が料理研究家・管理栄養士の牧野直子先生に教えていただきながら、「ふわとろたまごのオムライス」「グリル野菜」を作りました。「ふだんはあまり料理をしない…」という人も、牧野先生の丁寧で的確なアドバイスのおかげで難なく完成させることができたようです



平成 27 年度日本の食魅力再発見・国産畜産物フェア（消費拡大全国展開事業）サンメッセ香川会場での展示風景。飼料米を使った畜産物をアピールしました。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](http://www.jpa.or.jp)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号馬事畜産会館内（5 階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2015 年 11 月 27 日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)